

## 令和5年度 第9回 豊田市足助地域会議 議事録

開催日時	令和5年12月18日(月)	開会	閉会
		18時30分	20時00分
会場	足助支所 2階 第2、3会議室		
出席者	太田市長、企画政策部副部長 都築、地域振興部室長 中川		
	企画課長 野依、都市整備課担当長 西岡		
	委員14名出席		
	足助支所 支所長 青木、副支所長 八木、副主幹 深田、担当長 鶴井、主査 花園		
欠席者	3名		
傍聴者	4名		
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の誓い唱和</li> <li>・会長あいさつ</li> </ul> </li> <li>2 足助地域会議からの答申「第9次豊田市総合計画の方向性について」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・答申書の授受</li> <li>・市長あいさつ</li> <li>・鈴木市議挨拶</li> <li>・意見交換、フリートーク</li> </ul> </li> <li>3 連絡事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規課題事業検討分科会</li> <li>・防災課題検討分科会</li> <li>・次回の会議等について確認</li> </ul> </li> <li>4 支所長あいさつ</li> </ol>		

### ■ 議事（要約）

#### 2 足助地域会議からの答申について

◆地域会議会長から市長へ答申書を読み上げ授受を行った。

##### 【答申要旨】

- ・山村条例に掲げた理念を前提に都市と山村の共生に関する視点を盛り込むこと。
- ・足助地域会議や区長会などでも取り上げされている山村地域の現状や課題を明確にし、危機感をもって臨むという強い意志を感じられる計画にして欲しい。

##### 【意見交換会】

（委員）

市町村合併後の急激な人口減少を目の当たりにした。どんな原因があるのか、ここを十分分析しなくてはいけないのではないかと。足助から若者たちが豊田の街中へ出て行った部分も多いのかと思うが、分析した手立てが実践の方で組み込まれていくようなことを考えていただきたい。

(市長)

人口の件に関しては目先の耳触りの良い話をするつもりはない。

これから10年20年30年経っていく中では明らかに人口が減っていく。そういうことが前提の社会、前提の暮らし方を子供たちが論議していく中で、どういう投資を、残さなければならぬのか、機能は何なのか整理していく必要がある。大切なのは自分の暮らす町、地域にどれだけ誇りと自信を持てるのか、どれだけ誇りと自信を持てるような地域社会を私たち大人が残していけるのかである。

(委員)

・足助を含めた中山間地域と旧市内とどう共生的な社会ができるか。足助支所の位置づけは広域の地域拠点のとして足助支所を総合支所として位置づけを考えているのか？

・中山間地域に暮らしている高齢者から子供までが山村条例ができたことにより、こういう形で見てきたという実感がほしい。

・足助支所の改築移転（交流館との一体化、警察等の近くで来庁者が一度で事を終わらせやすい位置へ移転）

・専門用語、外来語表記でなく誰でもわかりやすいようにしてほしい。

(市長)

いただいた意見を咀嚼してやらしていただくと思う。

(委員)

質問ではないが、生まれた時からずっと人口減少し続けていって当たり前状況になっている。今も商工会青年部などをやっていて空き家対策とか人口を減らさないように努力をしているのだが、結局仲間がいなくなっていく中で自分たちなりに考えて逆に豊田市にどうしてほしいということよりも、自分たちで何とかしていこうという気持ちで行動している人たちもいることを伝えておきます。

(委員)

答申内容で人口減少に対する具体的な機能は一体何なんだとのことですが、9月に諮問を受けた時の内容が抽象的だったため、具体的な機能などを考える余裕はこちらにはなかった。私が感じることでどんな機能があれば人口減少を減らせるかとしたときに鉄道、バスの交通サービスの確保、足助地区で高校生のいる家庭、朝の通学はほとんどが親に送ってもらう、自力でいけない。子供たちの成長する過程で自分の子供ができた時に同じ思いをさせたくない。小中学校までは子供たちは足助が好き出たいと思わないけど高校の段階でやっぱり不便だと感じる。高校生がバスに自力で乗れる高水準な交通サービスの確保を考えていただきたい。

(市長)

その件はそのために地域バスを増設するとかでなく、別のカーシェアの仕組み等に対応することを考えていかないと現実的ではないと思う。街だ、山だけではなくどこも各地域の状況で移動

手段を考えていく。として、将来的にはそこに自動運転が絡んできて、より安全に人の負担がかからないような形になっていく。将来に明るいイメージを持ちながら当面の課題に課題解決していく、現実的に楽しく考えていくことが必要。

(委員)

足助の中でも移動交通の共助の取り組みを検討している。おいでんバスまでの移動アクセスをどうするかを、民間を中心に検討しているので、もう少し具体的になっていった段階でご相談をさせていただきたい。

(市長)

なんかうまく組み合わせができるといいんだけど、産直へ農産物を出しに行くついでに子ども運んでもらえるとか。その地域の人動きの中で行える。あえてそのために新しく仕組みを作るのではなく。地域の中で、ここでこう人が動いている。その動きを掴んで考えるといい。

(委員)

そこを含めて今検討してしまして、郵便局の配送の時に乗せてもらうとか企業の送迎バスに乗せられないとか。なかなか難しいのが現実ですが。一方で旭とかでは住民が中心となつてのカーシェアリングの動きとかも参考にしながら考えています。

(市長)

9億、10億使っている今の公共バス、市としてはもっとコストをかけずに尚且つ市民の皆様の利便性を高めるそういう状況へ持っていかなければならない。何が何でもそういう仕組みを作らなければならないときに全部利用者負担でとは思っていない。だけど利用者は何らかの自己負担をそれぞれの地域で合意形成を図って払うべきで、かといって全額を負担するわけではない。そこに税金を投入するという事は構わない。だけどそういうやり方をしたとしても9億、10億という税金の使い方よりも、もっといい使い方ができるんじゃないかと思います。

### 3 連絡事項 事務局より説明

#### (1) 各分科会について

##### ○新規課題事業検討分科会

- ・陣屋跡地利活用のワークショップ報告会を下記の通り開催した。

日時：令和5年12月11日(月)午後6時30分から7時30分

会場：足助支所2階第2会議室

出席人数：16名(31名中)地域会議分科会、まちづくり推進協議会、一般公募

(報告会内容)

- ◆経緯及び検討結果の説明：オープラスアーキテクチャー合同会社 鈴木美央氏

- 3回のワークショップで陣屋跡地の魅力やこれからのイメージを共有、活用に必要な設備などの具現化した。その後、地域会議委員と有志メンバーで4回のWEBミーティングを行い、ワークショップ

で出た意見等を検討コンセプト、運営の方向性の確認、整備イメージ、コンセプト、利用のイメージを検討。

➤「目指す姿」、「目指す姿を実現するための心得」、「目指す姿を実現するための実行案」、「将来の利用イメージ図」を決定した。

「開かれた居場所、コミュニティ・交流の場を目指して」陣屋跡地を育てることをきっかけに、まちについてみんなで話す場とし、陣屋跡地をはじめから作りこむのではなく、使いながら使い方をみんなで考えていく場所にする。（新とよばーくも参考に）

◆実行案（整備等）説明：事務局

➤引き続き地域会議分科会（有志のメンバー含む）で管理・運営のルール等検討しながら3月までに陣屋跡地開放のチラシを作成配布し、開かれた陣屋跡地を住民等にPRする。

➤令和5年度整備品としては、テーブル・イスセット（とよしばの再利用）、パラソル、時計、トイレ前に雨水の処理用U字溝・集水桝、塀沿いの樹木剪定、予算残の状況等で電線、水道の埋設を行う。

➤令和6年度も地域会議分科会（有志のメンバー含む）で管理・運営のルール等検討電気・水道、敷地内整備もみんなで話し合いながら整備を進める。令和7年度以降は必要に応じて整備を行う。

#### ○防災課題検討分科会

・足助地区自主防災力向上事業（防災訓練・避難訓練モデル事業）

実施自治会：御内自治会、桑田和自治会

各自治会とも1回目の打合せ終了（実施計画等確認）、1月より事業実施

#### 次回の会議等について確認

・第5回まるふく会議（高齢者課題検討分科会）

令和5年12月26日（火） 午前10時から 足助支所

・第10回足助地域会議

令和6年1月15日（月） 午後6時30分から 足助支所

・第5回あすけ通信編集会議

令和6年1月23日（火） 午後6時から 足助支所

・第6回新規課題事業検討分科会

令和6年1月14日（日） 午後1時30分から 陣屋跡地